

2013 北海道の山トイレの現状

－写真から北海道の山トイレ問題を考える－

佐藤 文彦（やすひろ）（(有)風の便り工房代表）

私は大雪山国立公園ばかりでなく利尻・礼文、羅臼・斜里・阿寒などの避難小屋と管理人の有無や常駐期間、登山道の状況、トイレの有無、野営地の場所、水場などを調査する仕事もさせてもらっています。当然トイレは重要な調査項目になります。ただトイレについては有無のみに絞られていて（携帯トイレブースも含む）、写真を添付したり利用の現状などは出版物には反映されていません。山のトイレについての情報は現場に行く度に写真を撮ったり、避難小屋管理人の話を聞いたり、自分で確認した事などを山のトイレを考える会にその情報を随時提供しています。

山のトイレを考える会では、その情報を『**やっさんのトイレ調査情報**』と題して、2013年よりホームページに随時掲載していただける事になりました。今回はその2013年分の調査情報を本資料集でもご紹介いただけることになりました。山に於いては、登山道の荒廃の現状などの問題と共にトイレの問題は古くて常に新しい課題としていつも付いて回ります。この先には大雪山国立公園世界自然遺産、近くには山の日制定の諸問題等があり、これらの大きな課題にもやはり足元を固めておかなければならない、非常に重い課題ではないかと思っております。

1. 白雲岳避難小屋トイレ調査（2013.7.2）

7月2日に高原温泉、白雲小屋、小泉岳、緑岳と周ってきました。トイレの清掃は完璧に近いのですが、登山者のマナーには泣かされているようです。

テン場の積雪が深いところでまだ180cm、浅くて130cmほどありました。早く溶けるように溝を掘ってありましたが、全部溶けて乾燥しテン場として利用できるのは、後2週間強かかるのかなと思ってきました。水場は溝が掘ってあり豊富に出ているので一安心です。



（写真1）テン場は溝を掘っているが乾燥は2週間後か



（写真2）水場は何回か試掘をし、1日で掘り上げたとのこと



(写真3) 便槽の裏側。今春にゴミ袋が入れられたらしい。最悪のケースだそうだ



(写真4) 便器前には掴まり棒があり高齢登山者には好評とのこと。便器、室内とも清潔

2. 黒岳バイオトイレ・オガクズ交換作業（2013.7.11）

7月11日、黒岳バイオトイレ清掃日には上川総合振興局、上川町、層雲峡観光協会、北海道自然保護監視員8名で、汲み取り、梱包、搬送、新オガクズ入れ等の作業が行われました。私が少し遅れて到着した時は既に作業が始まっていました。

今回は、液体の混ざり具合が良く作業も割としやすい状況でした。袋詰め、梱包も順調に進み新しいオガクズを投入して、予定通りのスケジュールで終了。当日、梱包した袋を搬送する一輪車は振興局の担当者が朝一で担いできたとのこと。軽いものではありません。ご苦労には敬意を表します。



(写真5) トイレ裏側にある尿尿（オガクズ）袋の仮置き場。10月上旬ヘリで搬出



(写真6) 一個づつ重量を計測しておく



(写真7) 回収の袋はナンバーを付け、重さを記録し最後の撤収時に重量計算の参考にする



(写真8) 回収用の柄杓と2回程度入れる石灰、袋固定用のクリップ。この道具がないと始まらない



(写真9) 汲み取った物を二重に袋に入れて処理



(写真10) 振興局担当者が担いできた一輪車



(写真11) 物を回収しながら片方ではスクリュウ（自転車漕ぎ）をゆっくり回す



(写真12) 便槽の汲み取り作業



(写真 13)

物を回収後、新しいオガクズを入れる

3. 利尻山トイレ調査報告（2013.7.16）

7月14日～17日と利尻山に行きました。3合目の野営場が2012年春に全施設が改築され、その内容も一新していました。

管理人事務所とトイレが同じ建物に在り、調理施設、バンガロー等が周囲にまわっておりあります。大きな回収ボックスも近くの分かり易い所にありました。

一個目の携帯トイレブースが6.5合目にあります。さすがに登山口から近いこともあって利用者は少ないようでした。ただ、ここで女性登山者から貴重な情報を得ました。どのブースのドアも登山道側を向いているので、待たれている時は少し気になるということです。女性登山者が多くなっているこの頃ですから、女性目線のトイレブースの設置も重要なことかも知れません。



(写真 14)

さすがに携帯トイレの使用マニュアルは要を得ている。ただ男性はペットボトルを使用しようの件は回収ボックスの管理人が頭を抱えていた。小便をトイレに捨てないで回収ボックスに捨てるのが多いようです。管理人さんも手をつけたくないといっていました。大雪にもこの波が入ってくるのだろうか？



(写真 15)

トイレブース毎に上と下のブース位置が記載してあり分かり易い。欲を言えば4或いは5合目くらいにブースが一つ欲しい。というのも女性の下山者は下のトイレまで我慢をしている人が多いようだ



(写真 16)

ブースのドア一位置が道路側を向いているのが多く、待たれている時などは、抵抗があると女性登山者が話していた。使いやすいトイレにするのも携帯トイレ使用の促進につながるのではと感じた



(写真 17)

ブース毎に上下のブース位置がイラストされているが、下山の女性の目線から行くと5合目あたりにもう一つブースが欲しい。女性の下山者はキャンプ場までトイレが使えなくて大変なようだ



(写真 18)

杓形コース 8.5 合目ブース登山道整備のための資材等が置かれていて使いづらい。今年で整備は終了の予定と聞いているが…



(写真 19)

携帯トイレ回収ボックスは満杯ではないが、ゴミ等が入っていない



(写真 20)

携帯トイレ専用ブースの床は土間とスチールメッシュの両方があるが、メッシュはゴミが落ちると取れないで目立ってくる。土間は土を掻き出してくれば良いので掃除の際は楽でゴミも出しやすい。やはり整備用の資材等がブース内に在るのは多少気になる



(写真 21)

男性がペットボトルを使用した後の写真。
ブースの中に置かないでもと思うのだが…



(写真 22)

男性用にペットボトルの使用を進めている
が、中身を捨てないで回収ボックスに入れる
割合が多いとのことで、一長一短あり



(写真 23)

避難小屋横のトイレブース、床はスチール
メッシュでなく土間になっている。メッシュ
と違い掃除しやすいのだが掃除道具は避難
小屋の中に在る。沓形コースは2カ所とも土
間になっている

4. ニセイカウシュッペ山トイレ調査報告（2013.7.25）

ニセイカウシュッペ山は登り易くなって、多くの登山者が訪れますが、駐車場があ
る登山口にトイレはありません



(写真 24) ニセカまで 3km 地点のティッシュ
2カ所とも回収済み



(写真 25) 展望台外れに在ったティッシュ

5. ニペソツ山トイレ調査報告（2013.8.8）



（写真 26） トイレは入山届の奥側にある



（写真 27） 回収ボックスは施錠されていないが、
ナンバー式の錠があった



（写真 28） ボックスの中にゴミは入っていないか
ったが、筐が進出していた



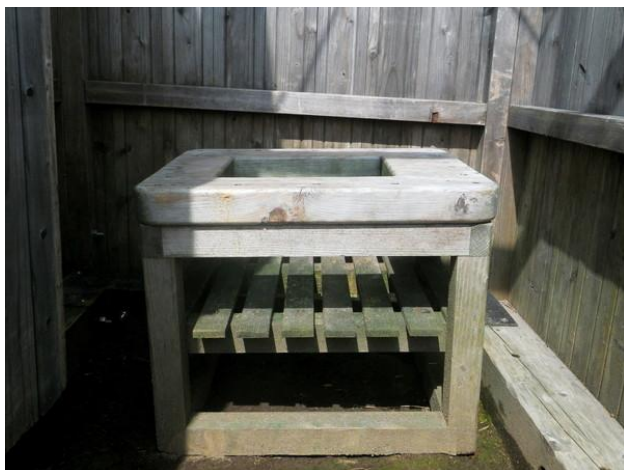
（写真 29） 男性用トイレも割と綺麗に使ってい
る方かと…



（写真 30） 流石にニペのトイレブース。出入り
にニペ山頂を見られるが、使用中には
見られない



（写真 31） ブースの位置は強風が吹くので
アンカーはスクリュウで固定して
ある



(写真 32)

便座は木組みの頑丈なものにしてある。
この便座も二ペだけのもの

6. 羅臼湖（知床）トイレ調査報告（2013.8.16）



(写真 33)

羅臼湖登山口、入林届けと携帯トイレ回収ボックスが配置されている



(写真 34)

入林届管理者との調整もあるが、ボックスの中にマナー袋、トイレマップ等を置かせてもらう方法もあるのでは



(写真 35)

携帯トイレ回収ボックスの開閉蓋には簡易カラビナが細いワイヤーで接続されているが、施錠よりは使いやすかった



(写真 36)

回収ボックスの中はゴミ等も無く清潔に利用されていた



(写真 37)

作業員用のトイレや工事用倉庫も併設され、
すぐ近くに詰所等もあり、利尻の作業現場と
はかなり差がある



(写真 38) 登山者用の携帯トイレブース。
四の沼直下にある



(写真 39) 便座と横の青いのはバケツ、
白いのは消臭液



(写真 40)

便座の下はこんなイラスト入りの注意書きが
置いてある。これは他でも使えそうなアイ
デア！



(写真 41) 羅臼湖登山道整備に所々グレー
チング工法が敷設されている

7. トムラウシ山トイレ調査報告 (2013.8.28)



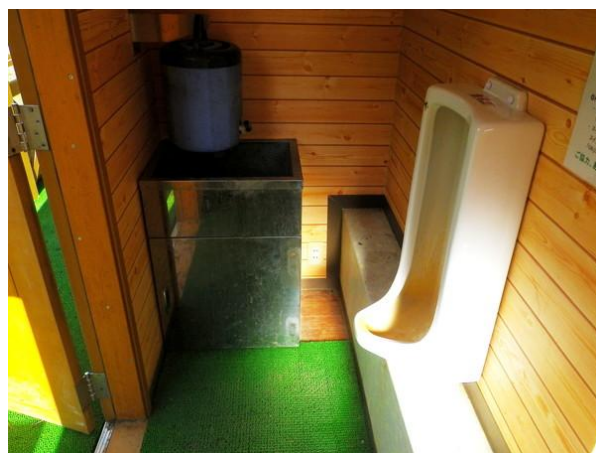
(写真 42) 短縮路登山口のバイオトイレ全景
と回収ボックス



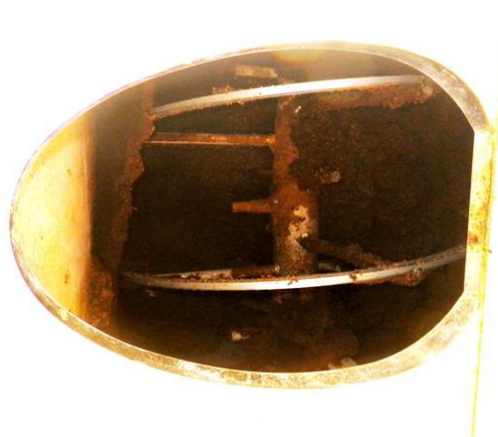
(写真 43) 回収ボックスには施錠もカラビナ
形式のワイヤーも掛かっていない



(写真 44) 回収ボックスの中は使用済の携帯
トイレとゴミも入っていた



(写真 45) 男性用小便器が横に敷設されている



(写真 46) 便槽内は湿気も無さそうで、やは
り大きなソーラーパネルの威力
が発揮されている



(写真 47) トイレ使用後はスイッチを押し便槽
内を自動で回転させる